

9月26日(火)、広島サンプラザにおいて「体育祭」が行われました。室内での体育祭は、昨年の広島グリーンアリーナ続いて2回目です。昨年は午前中のみの実施でしたが、今回は終日実施に。また、保護者の参観者数は600余名もあり、観覧席からの声援は生徒の奮闘の後押しとなりました。

体育祭の花形競技のリレーは、会場の広さの関係でトラック周回ではなく、直線コースでのバトンに。しかし、大いに盛り上がりました。また、中学校の大縄跳びは、中学3年B学級が日頃の練習の成果を如何なく発揮し、3分間で191回の記録を作りました。その他の競技や応援においても生徒の熱い想いが会場を包み込みました。全校生徒約900名が一体となり、仲間の大切さ、繋がる意味について、改めて気づくことができた一日だったに違いありません。本当に素晴らしかったです。



(写真：高校 2人3脚ゴールシーン)

協創する人に

9月16日(土)、「アクティブ・サタデー」の日として、今年2回目の授業参観(高校1年生は1時間、それ以外は2時間)、研修旅行説明会(中学2・3年生、高校1年生と高校2年生一部コース)、そして、保護者対象の校長講話と保護者交流会が行われました。保護者交流会は、中学生と高校生の保護者が縦割りで居住地ごとの小グループ(4~6人)に分かれ、日頃抱いている子育ての想いなどを共有する絶好の機会となったようです。

さて、保護者交流会に先立って行った「校長講話」には、約100名の保護者が参加されました。「近況報告と『8つのマインドセット』について」というテーマでお話しさせていただきましたが、終始熱心に傾聴いただいたことに対し、心から感謝申し上げます。

その内容は、

1. 「学校評価アンケート」(7月)の結果から。
2. 「学校改革」に取り組んでいる目的と意味。
3. 子どもたちがこれからの社会を生き抜くために、我々ができることは何か？
4. 目指すのは、「自走する」人に。そして、「協創する」人に。
5. ”できない理由より、できる方法を考えよう”の具現化に向かおうとする生徒たち。

という5つのことについて触れながら、改めて本校が目指す生徒育成像についてでした。

将来の予測が困難な時代にあって、社会がどう動くこうとしているのか、社会はどんな人材を求めているのか、そのためにはどのような学びを獲得していけばいいのか、という確認をし、学校のあべきカタチは…、と話を展開しました。本校は2つの柱(建学の精神「報恩感謝・実践」と教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」)に基づいて教育活動がなされていること

に沿うと、生徒の成長の目標は、自立することにあって、さらに願わくば自走することにあります。さらに、本校の校名である「協創」とは、多様な人と交わり、協働して新たな価値を創造することです。今、高校生徒自治会と1年7学級(授業「探究」)では、校則を見直すことに取り組んでいます。自走する人、協創する人が徐々に育ってきているようです。

というように結びました。そして、教職員も協創しながら生徒を見守っていくことを再認識しました。

同じ16日(土)午後、本校LRC(ラーニングリソースセンター)に広島県立廿日市西高校の図書委員4名(女子生徒)が、本校図書委員との交流のため来校してくれました。最初に、LRC内の見学。蔵書量や展示本、新刊本の陳列の様子に「すごい!」という声が上がったそうです。その後、それぞれの学校の図書委員会活動の報告をし合い、本校からは多くの生徒がLRCに関心を寄せてもらう一環として「水引しおり」を作っていることなど、廿日市西高さんからはお薦め本のPOP作成などについて情報交換をしたとのことでした。

後日、この交流会に参加した本校生徒に話を聞く機会がありました。このたびの交流会を通じて得たことは? これからの委員会活動に繋がりたいことは? などと問うと、「なかなか思いつかなかった案がありそうだ」「SDGsに関するコーナーの設置もいいかも」「LRCのオリジナルキャラクターを作りたい。名前を応募して…」など、前向きな案が続々と。素晴らしいですね。

こうして様々な人と協働しながら新たな価値を創っていく、「協創する人」として生徒が育っていくことを心から願っています。